

經濟論叢

第二卷 第四號

論說

● 雜種稅ノ分析及其整理

● 奢侈ト貧困

● てがらゐるごひゆゝむノ經濟學說三

研究

● 不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

● 保險ト偶然性

● 本多利明ノ經濟說三

雜錄

● 英國經濟政策ノ變轉期

● 貧民ノ體力ニ就イテ

● 英國ノ戰爭利得稅

● 本邦私出產ヲ死産

● 歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

● 郷土ノ經濟的研究

● 所有權ノ起源

● 紙幣ノ下落

● 經濟學讀書會記事

● 富田博士ヲ悼ム

法學博士 神戶正雄

法學博士 河上肇

法學博士 福田德三

山口高等商業學校教授 作田莊一

法學士 小島昌太郎

講師 本庄榮治郎

助教授 河田嗣郎

講師 高田保馬

法學博士 小川郷太郎

教授 財部靜治

助教授 山本美越乃

法學博士 神戶正雄

講師 本庄榮治郎

法學博士 河上肇

講師 高田保馬

法學博士 織田萬

英國ノ戰爭利得稅

法學博士 小川郷太郎

一 戰爭ノ永引クニ連レテ、戰費ハ益々多クカカル様ニナツタガ、他方ニ、戰爭ニ因テ儲ケル人ハ、愈多ク又其儲ケル額モ愈々大トナツタ、ソコデ戰爭利得稅ハ次第ニ諸國ノ問題トナツテ來タ、

戰爭利得稅ニ就テ先鞭ヲ着ケタルモノハ丁抹¹⁾デアル、ソノ事ハ既ニ本誌ニ於テ報告シテ置イタ、²⁾其後瑞典諾威モ亦之ニ倣ハントシテ居ル、是レハ不思議ニモ皆中立國デアル。

交戰國ノ中デ、戰爭利得稅ヲ起シタモノハ、英伊露ノ諸國デアル、獨佛ニ於テモ、夙ニ戰爭利得稅ノ草案ヲ公ニシテ居ル、³⁾遠カラズ法律トナ

ツテ來ルデアラウ。

是等諸國ノ立法ニ就テ觀ルニ、英國ノ立法ハ非常ニ思ヒ切ツタ所ガアル、仍テ茲ニ其大要ヲ述ヘテ見ヤウ。

二 英國ノ戰爭利得稅ハ普通 the excess

profits tax ト稱セラレテ居ル、戰爭ニ因リテ年ヨリモ多クノ所得ヲ得ルモノニ稅スルコトニシテアル。然ラハ其平年ノ所得ハ如何ニシテ算出スルカト云フニ、戰爭前三ヶ年ノ中二年ヲトリテ其所得ヲ平均スルノデアル、其二ヶ年ノ何レヲトルカハ納稅者ノ撰擇ニ任カス、而シテ戰時所得ガ此戰前ノ平均所得ニ超過スルト、ソレハ戰爭ノ爲メニ儲ケタモノト推定シテ茲ニ所謂戰爭利得稅ヲ課スルノデアル、但シ其超過額カ二百磅ニ達セナイトキハ之ニ稅セナイ、而シテ其稅率ハ百分ノ五十デアル。

戰爭利得稅ヲ課スベキ範圍ハ元則トシテ、總テノ業務 (all trades or businesses) トシテアルガ、實ハ三ノ大ナル例外ガアル、其一ハ農業デ、其二ハ官吏勞動者ノ如キ勤勞ヲ提供スルモノデ、其

1) 本誌第二卷第一號百二十頁以下 本誌第一卷第四號百二十九頁以下

2) Bankarchiv XV. Jahrgang Nr. 5. S. 87-

L' Economiste français 22 Janvier 1916. P. 111-112

三ハ資本ヲ用ヒサルカ又ハ小額ノ資本ヲ用フルニ過キサル職業デアル、故ニ英國ノ戰爭利得稅ハ主トシテ商工業者ヲ稅スルモノト謂ツテヨイ

三 英國ノ戰爭利得稅ハ此ノ如ク商工業者ニ稅スルヲ趣旨トスル、ソレニ就テハ大藏大臣ガ昨年九月ノ議會ニ於テ説明シテ居ル、何故農業ヲ稅セヌカト云フト、ソハ戰爭利得ノ額ヲ定ムルコトガ困難デアルカラダト言ハレテ居ル、戰爭利得ノ額ノ定メ難イト云ツタ丈デハ除外スル理由ハ薄弱ノヤウデアルガ、併シ實際ニ於テハ英國デハ農業ノ見ルベキモノナイ穀物ト云ツテモ、多クハ外國ヨリ仰イデ居ルノデアルカラ、穀價ノ高クナルガ爲メニ儲ケルモノハ主トシテ商人デアルトモイヘル、從テ商人ノ儲ケルモノニ稅スレハ足リル、農業ニ稅セナクトモ不公平ト云ヘナイ。

何故官吏勞働者ノ收入増加ニ又ハ勤勞ヲ主トスル職業ノ收入増加ニ戰爭利得稅ヲ課セナイカト云フニ、ソハ所得稅ニテ既ニ稅シテ居ルカラダト言ハレテ居ル、勞働者ノ賃錢ハ戰爭ノ爲メニ

非常ニ騰リ中ニハ二倍ニモ三倍ニモナリテ居ルモノガアル、然レトモ他方ニハ食料品等ノ價モ騰貴シテ居ルカラ、勞働者ノ擔稅力ハ賃錢ノ騰レル程上リテ居ナイ、加之所得稅ノ最低課稅點百六十磅ハ百二十磅ニ下ケラレタノデアルカラ、賃錢ノ騰貴ニヨリ、一週二磅五志ヲ得ルモノハ既ニ所得稅ヲ課セラレルコトニナル、故ニ戰爭利得稅ヲ課スルニ及ハナイ、又勤勞ヲ主トスル職業モ亦同一ノ趣旨ニヨリテ課セナイモノト思ハレル、其立法ノ精神ヲ究メルト、勤勞所得ニ輕ク稅シ、財産所得ニ重ク稅スルト云フ考ニ歸スル、コレハ租稅正義ノ原則ヨリ來ルモノデ最モ當ヲ得タモノト云ハ子バナラス。之ヲ要スルニ英國戰爭利得稅ガ戰爭利得ノ範圍ヲ限ルコトハ大體ニ於テ批難スルコト出來ス。

四 英國戰爭利得稅デ、最モ議セ子ナラスモノハ稅率デアル、稅率ハ百分ノ五十二定メテアル、頗ル簡單明瞭デハアルガ、戰爭利得ノ多キモノト少キモノトヲ同一率ニテ律セルコトハ必ズシモ租稅原理ニ適ヘルモノデナイ、此點ニ於テ

ハ、丁抹ノ立法ニ遜色アリト謂ハネハナラヌ、併シ戰爭利得ノ半分迄ヲ徵スルニ至テハ、流石ニ英國デアルト評セサルヲ得ナイ、茲ニ更ニ考フベキハ戰爭利得税ノ外ニ一般所得税ノ存スルコトデアル、此二者ヲ合セルト、租税額ハ戰爭利得ノ六割ニモ達スル、所得ノ大部ノ没收トモ見ルコトカ出來ル、實ニ思ヒ切ツタル立法ト謂ハネハナラヌ、英人ハ由來利己主義ノ國民トシテ知ラレテ居ルガ、此ノ如キ苛酷ノ税ニ對シテ反抗セナイ様デアアル、當ニ反抗セナイノミデナク、尙稅率ヲ高クセラレテモ甘シテ之ヲ負擔セント論スルモノサヘアル Gibson が英國戰爭利得税ヲ論シテ居ル中ニ、蘇格蘭製鋼會社々長ガ總會ニ於テ述ヘタル演說ヲ引用シテ居ルカ其一節ニ

"It may be, indeed, that before the war ended the Government may find it necessary to take not so but 100 percent of those extra profits, and if they do I hope that none of us will complain."

トアル、戰爭利得ノ全部ヲ徵收セラレテ更ニ不平ノ色ナキニ至レハ、犠牲の精神モ亦絶頂ニ達シテ居ルト云ツテヨイ、思フニ英人ハ、此社長

ノヤウノ人ノミテハアルマイ、併シ戰爭利得ノ半分ヲ強徵スルトシテモ亦容易ナラヌ沙汰ト謂ハネハナラヌ、是レ亦慥ニ、當ノ敵タル獨逸人ヲ驚カスニ足リテ居ル、Leo Blum 氏ハ能ク這般ノ消息ヲ洩ラシテ、

Piese axorbitante Höhe der Steuer, die in Wirklichkeit eine teilweise Einkommen- bzw. Vermögenskonfiskation darstellt, ist gerade für England besonders bemerkenswert, für das Land, das die Lehre vom verständigen Eigennutz als Grundpfeiler aller Nationalökonomie eingesetzt hat, und von staatssozialistischen Ideen bisher recht wenig wissen wollte."

ト評シテ居ル、此邊ハ、英人ノ平生ヲ以テ推斷スコトノ出來ナイ所デアアル。

五 戰爭利得税ハ戰爭利得ノ半分ヲ徵收セントスルノデアアルカラ其額ハ自ラ大トナラサルヲ得ナイ、大藏大臣 Mc Kenna ハ一年三億圓ト計算シテ居ル、即チ一年ノ戰爭利得ハ六億圓ニ達ストスルノデアアル、處ガ、ソハ低キニ過ギテ居ルラシイ、此問題ニ就テ最モ詳ニ論ジテ居ルハ Gibson 氏デアアルガ、氏ハ一年中ノ戰爭利得ヲ七

4) Gibson, the excess profits tax (Bankers' Magazine December 1915, P. 726-)
 5) Die englische Kriegsgewinnsteuer (Deutsche Wirtschaftszeitung XI. Jahrgang Nr. 21 S. 605.)
 6) Gibson. Ibid. P. 727-

十億圓ニ達スルトシ課税スベキ戰爭利得ノ高ヲ四十億乃至五十億圓トシテ居ル^(註)此計ハニヨルト、英國戰爭利得税ハ二十億圓乃至二十五億圓ニ上ルト謂ハネバナラヌ、藏相ノ計算ト Gibsonノ計算トハ非常ニ差ガアルガ何レニシテモ少カラヌ税額トナル、從テ此新税ハ英國ノ戰費支辦ノ上ニ一大意義ヲ有スルモノト謂ハ子ハナラヌ。

(註) Gibson ハ先ツ一九一六年三月三十一日ヲ以テ終ル會計年度ニ於テ戰費支辦ノ爲ニ起セル公債百二十八億五十萬圓ノ中ヨリ外國ニ起シタル公債額并ニ外國證券ノ賣却金額二十億圓ヲ差シ引キ、更ニ戰前ニ於ケル年々ノ國民貯蓄三十五億圓ヲ引キ、其殘リ約七十億圓ヲ以テ、國民カ戰爭ニヨリテ得タル諸ケトスルノデアアル、此中ヨリ農業カ得ル利得并ニ小商店并ニ個人ノ得ベキ二百磅以下ノ戰爭利得ヲ差引カネハナラヌガ、サウスルト課税スベキ戰爭ノ利得ハ四十億圓乃至五十億圓ニナルト云フノデアアル。